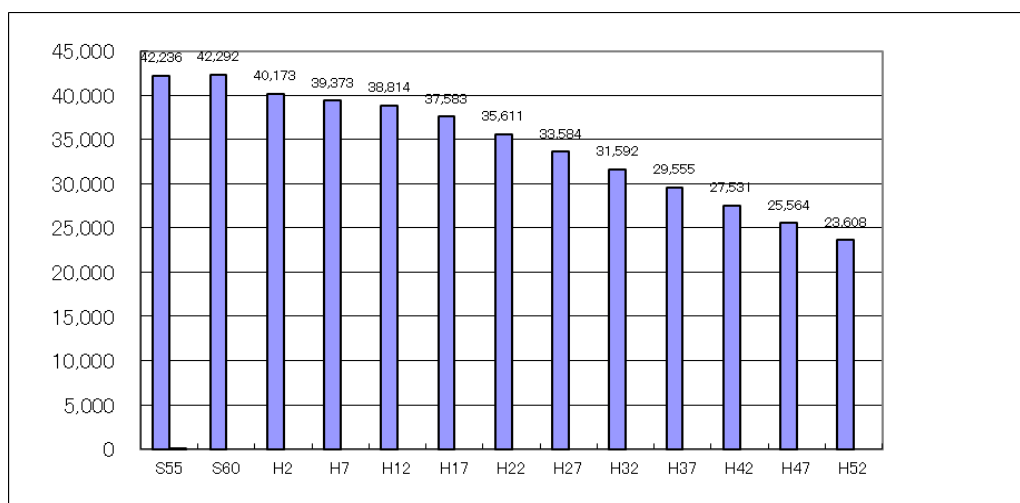


## 第2章 現状と課題

### 1 少子化の状況及び家庭の状況

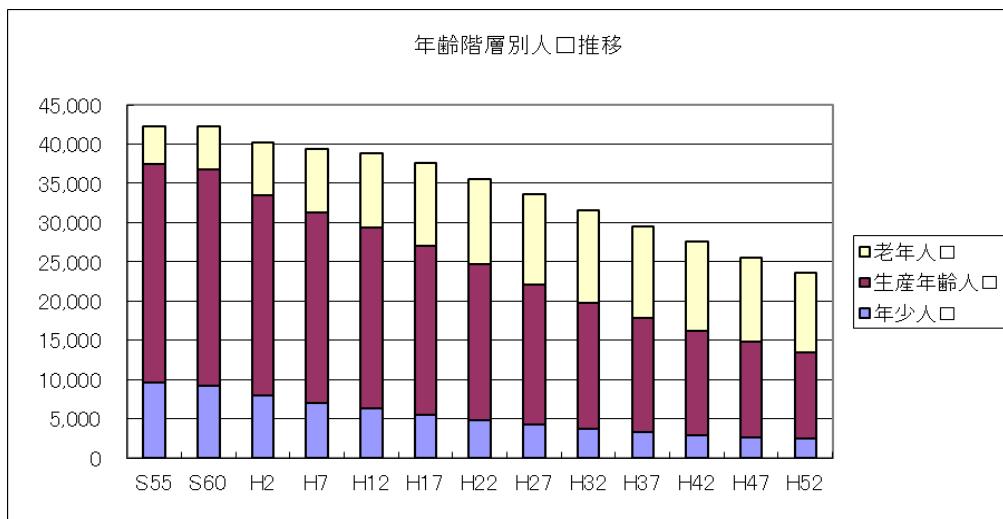
#### (1) 人口の推移

本市の人口は年々減少を続けており、平成22年国勢調査において総人口35,611人となっています。国立社会保障・人口問題研究所が発表した「日本の市区町村別将来推計人口」（平成25年3月推計）によれば、平成37年以降に人口3万人を割り込み、25年後の平成52年には、人口2万5千を割り込むと見込まれています。



※平成22年までは国勢調査による。27年度以降は、国立社会保障・人口問題研究所推計による数値（下段グラフも同じ）。

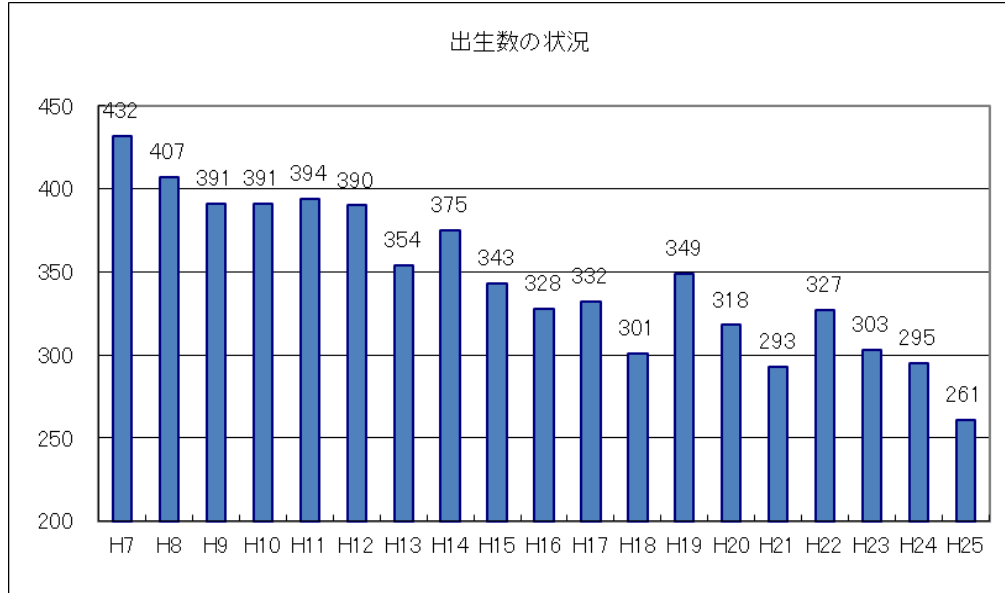
また、3区分の年齢別人口で見ると、年少人口（0歳～14歳）の総人口に占める割合は、平成17年の14.7%から平成22年の13.7%に減少しましたが、平成27年には12.7%と更に減少すると見込まれています。また、生産年齢人口割合（15歳～64歳）は、平成17年の57.4%から平成27年には53.2%に減少し、平成37年には49.3%に減少すると推計されています。老年人口については、平成17年は、27.9%でしたが、平成22年に30%を超えて、平成42年には、40%を超えると推計されています。



## (2) 出生の動向

### ① 出生数

年によって増減はありますが、出生数は減少傾向となっています。平成20年度から24年度までは、300前後で推移していましたが平成25年度は261人でした。



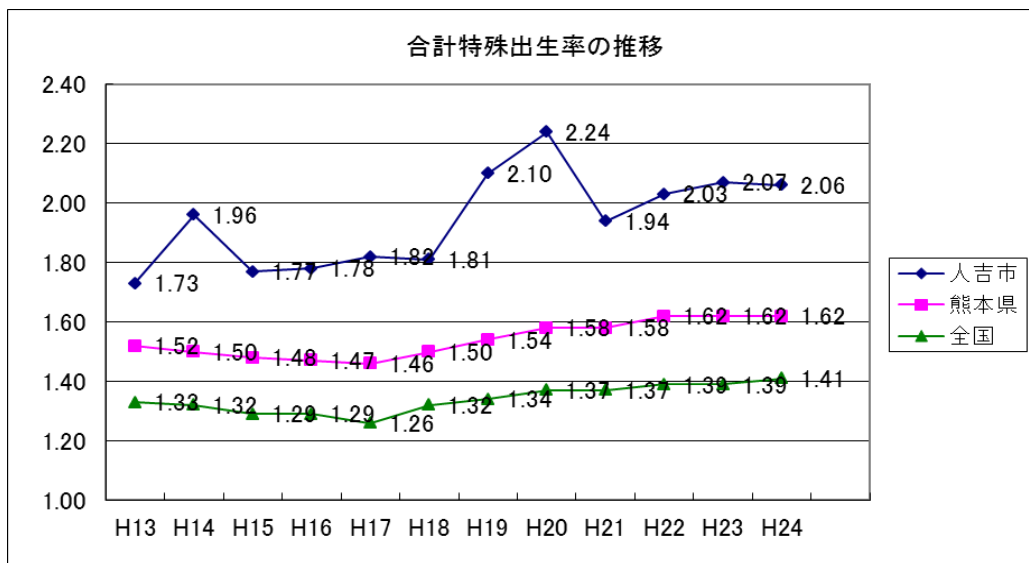
※ 数値は市民課の電算データを使用

### ② 合計特殊出生率・15歳～49歳女子人口の推移

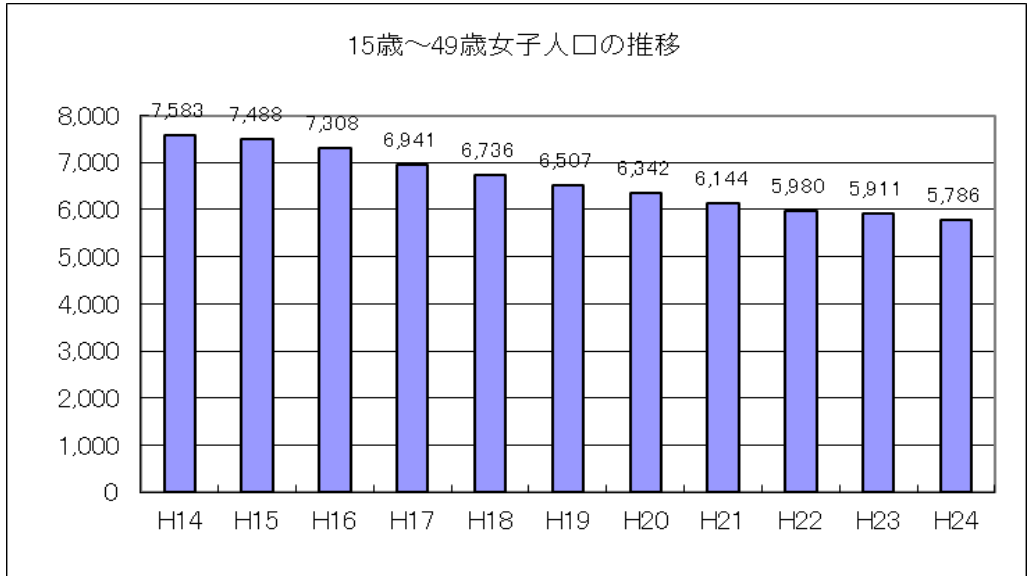
合計特殊出生率は一人の女性が一生に産む子どもの数で、少子化の指標として使われており、2.07人で現在の人口を維持できるといわれています。

本市の平成24年度の数値は2.06となっており、平成20年～24年の平均値も2.07と、国や県と比較して高い数値となっています。

しかし、合計特殊出生率の分母となる15歳～49歳の女性の数は、平成19年の6,507人から平成24年の5,786人にこの5年間で721人減少しており、合計特殊出生率の高さが実際の出生数の動向に反映されない状況となっています



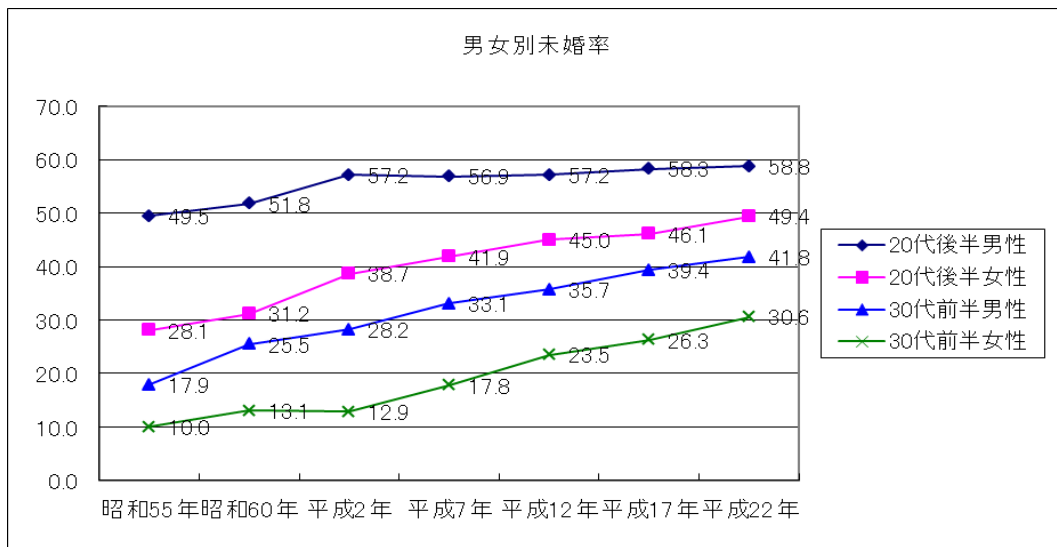
※人吉市の数値については、県衛生統計年報から人口・年齢別出生数を引用



### (3) 家族の状況

#### ① 未婚率

国勢調査のデータによると、20代後半、30代前半の未婚率は男女いずれも上昇しており、男性では30代前半が平成12年の35.7%から22年度の41.8%へ6.1%上昇、女性では30代前半が平成12年の23.5%から22年の30.6%へ7.1%上昇しています。



※数値は、国勢調査による。

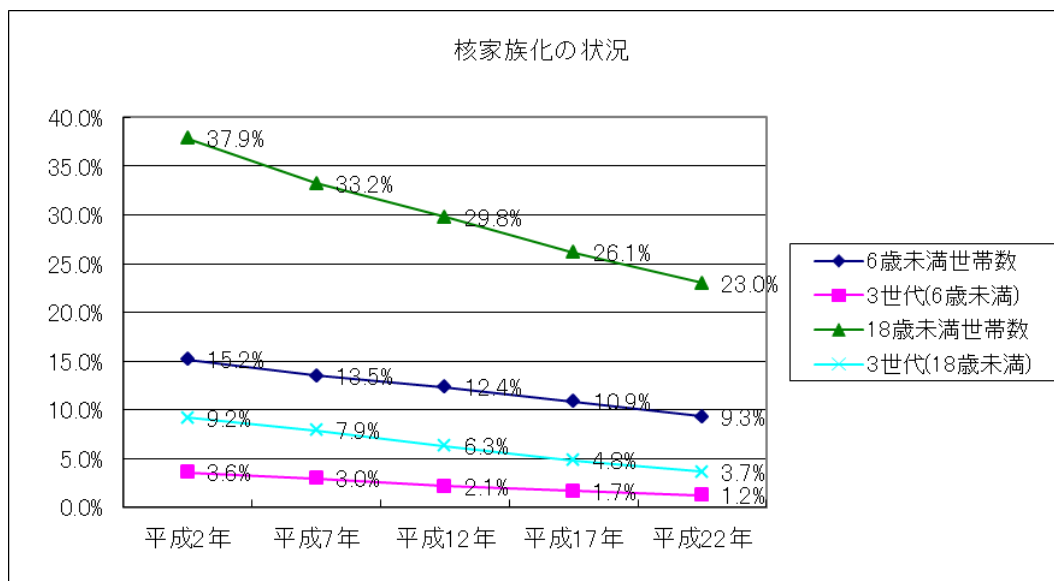
② 核家族の状況

国勢調査のデータによると、実際に3世代同居世帯で18歳未満の親族のいる世帯を平成22年と平成2年で比較すると、513世帯と886世帯であり、373世帯（42.1%）も減少しています。同様に6歳未満の親族がいる世帯を比較すると、170世帯と300世帯で130世帯（43.3%）も減少しています。核家族化が進行している状況がわかります。

1 8歳未満及び6歳未満の親族がいる世帯数とその中での3世代世帯数

年 度	全世帯数	6歳未満世帯数		3世代(6歳未満)		18歳未満世帯数		3世代(18歳未満)	
		数	割合	数	割合	数	割合	数	割合
平成2年	13,321	2,024	15.2%	477	3.6%	5,044	37.9%	1,222	9.2%
平成7年	13,664	1,842	13.5%	406	3.0%	4,538	33.2%	1,078	7.9%
平成12年	13,998	1,731	12.4%	300	2.1%	4,168	29.8%	886	6.3%
平成17年	14,094	1,534	10.9%	236	1.7%	3,684	26.1%	680	4.8%
平成22年	13,956	1,304	9.3%	170	1.2%	3,210	23.0%	513	3.7%

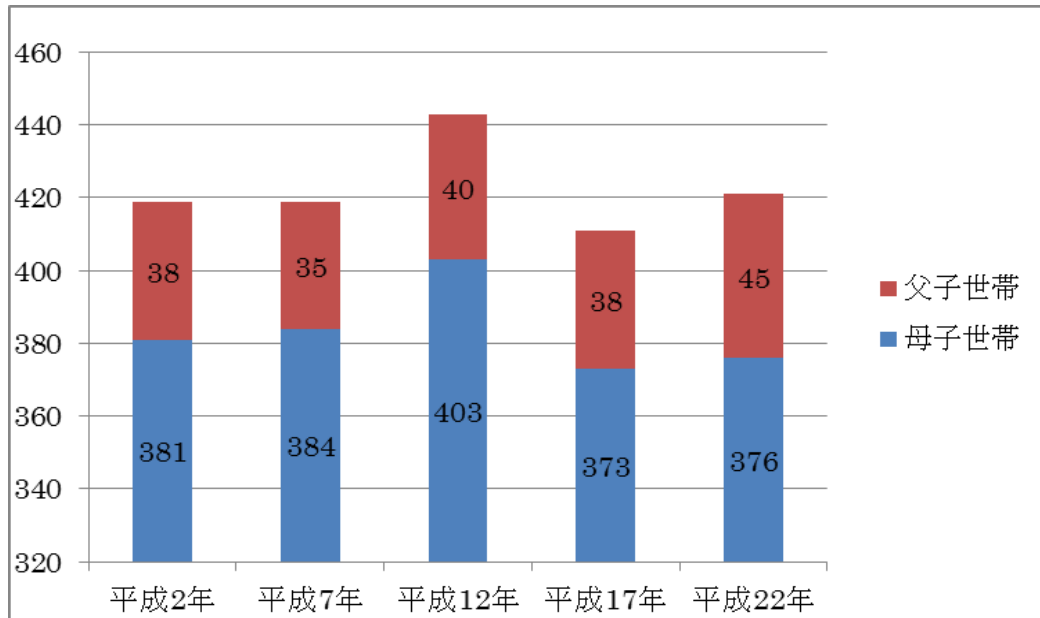
1 8歳未満及び6歳未満の親族がいる世帯の割合の推移



※数値は、国勢調査による。

③ 母子・父子世帯の状況

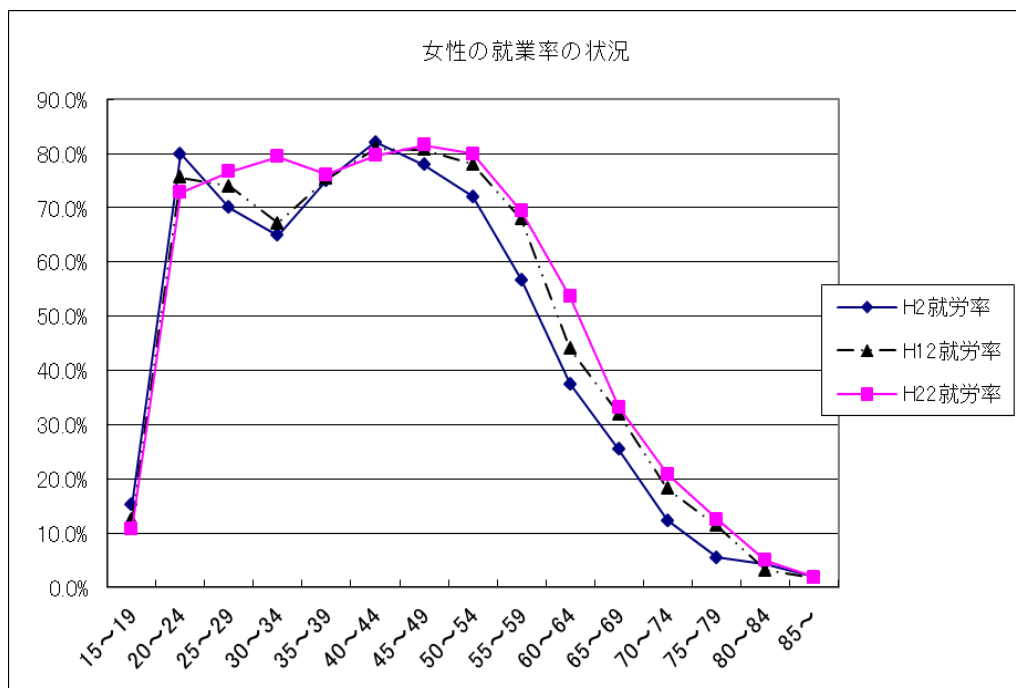
国勢調査のデータによると、18歳未満の親族がいるひとり親世帯は、平成12年が最も多く、平成22年には、母子世帯376世帯、父子世帯が45世帯となっています。



※数値は、国勢調査による。

④ 女性の就労状況

平成2年、平成17年の就業率は、30～34歳の年代で就業率が下がっています。結婚や出産があったと思われます。また、平成22年の就業率は、35～39歳の年代で若干下がっていますが、その後は高い率を示しています。平成22年のグラフのカーブが平成2年、12年のグラフに比べると就業率が落ちる年代が30～34から35～39に動いています。このことから、就業率の落ち込みがあまりないのは、女性の未婚化、晩婚化の影響や女性が結婚や出産しても育児休業等の取得が可能となり離職する女性が減少したと思われます。



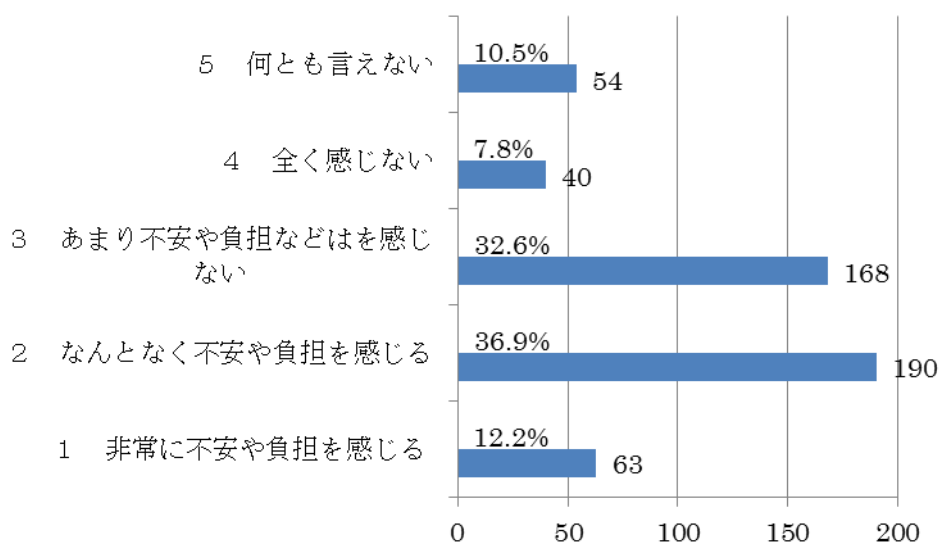
※数値は、国勢調査による。

⑤ 子育てを取り巻く状況

子育てに関する不安感や負担感とその理由

平成 26 年 2 月に実施した子ども・子育て支援ニーズ調査によれば、就学前児童を持つ保護者の 49.1%が子育てに不安感や負担感を感じると回答しており、その理由として「子育てで出費がかさむ」、「子育てによる身体の疲れが大きい」、「自分の自由な時間が持てない」という回答が多くなっています。

■子育てに関する不安感や負担感



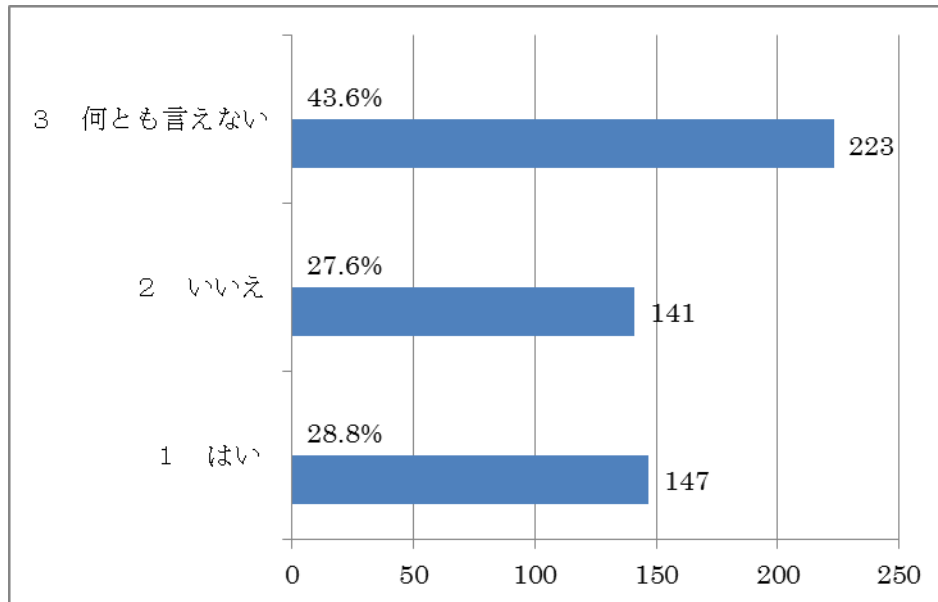
■不安感、負担感の理由



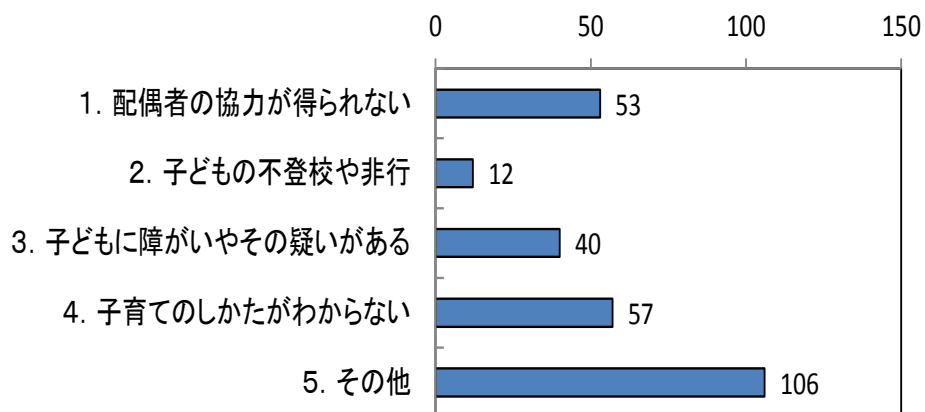
### 子育てに自信が持てない理由

子育てに自信がもてないことがありますかの問いに就学前児童を持つ保護者の28.8%が自信が持てないと回答しており、その理由として「配偶者の協力が得られない」、「子育ての仕方がわからない」という回答が多くなっています。

#### ■子育ての自信



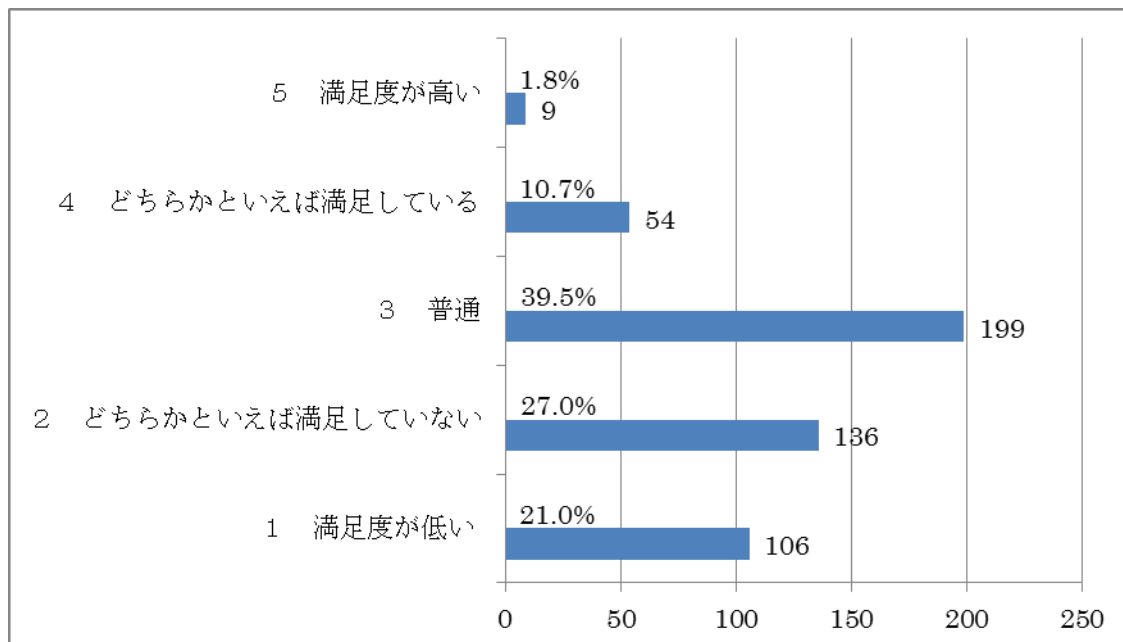
#### ■自信が持てない理由





### 子育て環境や支援への満足度

子育て環境や支援への満足度は、就学前児童を持つ保護者の12.5%が満足度が高いと回答しています。



## 2 保育園及び幼稚園の状況

### (1) 保育園の状況

平成 26 年度の認可保育所は 13 か所であり、平成 26 年 4 月 1 日現在の入所児童数は 1,190 人となっています（広域委託入所者を含む）。

#### 【認可保育園の入所状況】

区 分		H22	H23	H24	H25	H26
設置個所数	数	12	12	12	13	13
入所児童数	人	1,091	1,103	1,135	1,225	1,190
	0～2 歳	497	481	504	518	500
	3～5 歳	594	622	631	707	690

（各年度 4 月 1 日現在）資料：福祉課

### (2) 幼稚園の状況

平成 26 年度の幼稚園数は 3 か所であり、平成 26 年 5 月 1 日現在の入園児童数は 230 人となっています。

#### 【私立幼稚園の入所状況】

区 分		H22	H23	H24	H25	H26
私立幼稚園	数	3	3	3	3	3
	人	240	235	221	238	210

（各年度 4 月 1 日現在）資料：福祉課

## 3 放課後児童クラブの状況

平成 26 年度の放課後児童クラブは 10 か所であり、登録児童数は 380 人となっております。

#### 【放課後児童クラブの登録状況】

区 分		H22	H23	H24	H25	H26
実施個所数	数	10	10	10	10	10
登録人数	人	413	385	380	386	380
小学校児童数	人	1,968	1,916	1,901	1,802	1,794

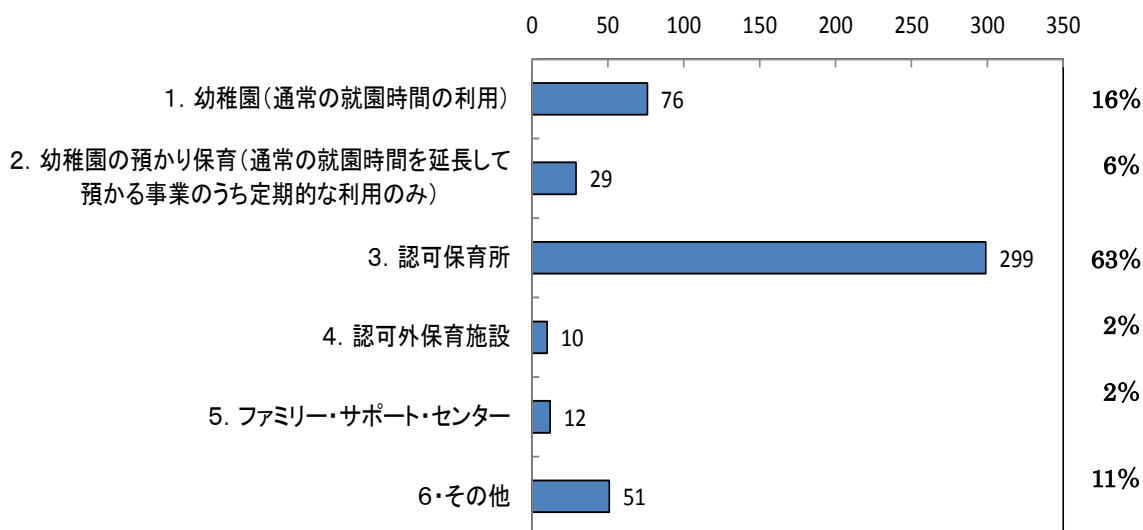
登録児童数 福祉課

小学校児童数（各年度 5 月 1 日現在）学校教育課

#### 4 調査結果による利用状況及び利用希望

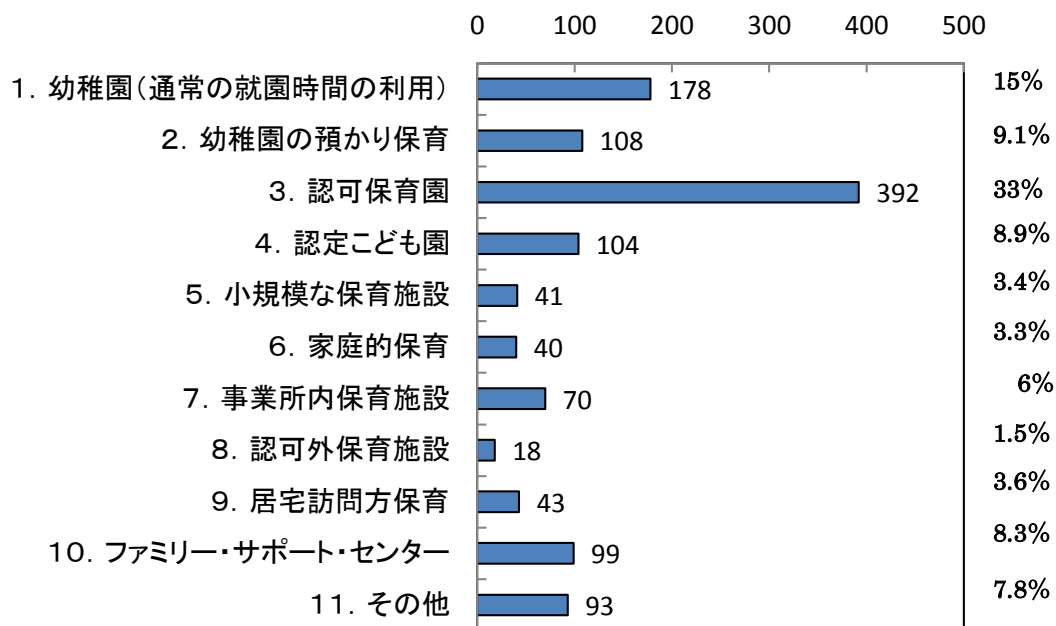
##### (1) 教育・保育事業の利用状況の状況

ニーズ調査の結果から、認可保育所、幼稚園を利用している割合が高くなっています。



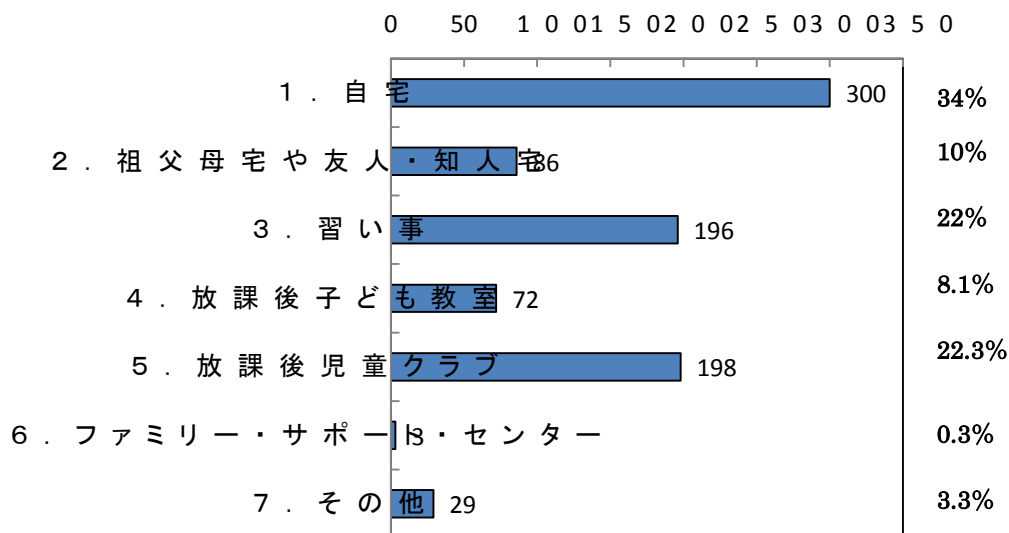
##### (2) 利用希望の状況

利用希望についても、認可保育所、幼稚園の利用希望が高くなっています。



(3) 放課後児童クラブの利用希望

小学校低学年（1～3年生）のうち、放課後の時間を自宅で過ごさせたいと思う保護者が34%、放課後児童クラブで過ごさせたいと思う保護者は、22.3%となっています。



小学校高学年（4～6年生）になったら、自宅が41%と最も多く、放課後児童クラブは、10.3%となっています。

